

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和4年3月23日(水)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

1・2年特別授業 実施

2年道徳「生きる喜び・思いやり」

今、考えてほしいことや私の想い・願いを授業を通して伝えるために、1・2年生にも、卒業生同様、特別授業を実施しました。2年生は、3月15日(火)に道徳の授業を行いました。昔からよく実践されている『カーテンの向こう』という資料で、イスラエルの病院の病室で生きる希望を失いつつも生きている人々の姿が、ヤコブという人物の生き方を通して描かれている作品です。ヤコブが病室の仲間にした外の様子を語った嘘は、仲間を励ますもので、希望を与えるものでした。この資料は「私」の視点を通してヤコブの姿を見ていくものですが、本当の思いやりとは何か、生きる喜びとは何かを、ヤコブの行動や「私」の心の変容を通して考えさせることのできる資料です。授業の最後に、相田みつをさんのこんな言葉を紹介しました。

外灯というのは
人のために つけるんだよな
わたしは どれだけ
外灯を つけられるのだろうか

■ 今回の授業を通して、人の優しさについて知ることができました。最初はひどいと思っていたヤコブは、すごく優しい心をもって、これが人間の優しさなのかなと思いました。私も外灯でみんなを照らせる心の広い優しい人間になりたいと思いました。みんなの意見も聞いて、すごく楽しく、人それぞれの感じ方の違いがよく分かる授業でした。

■ 私は、嘘は悪いことだと思っていたけど、ヤコブの嘘は悪いとは思わなかったです。きっと患者たちへのヤコブなりの優しさだと思いました。また、他の人の意見を聞いて、なるほどなと思いました。まさかカーテンの向こう側がレンガの壁だったなんて驚いたし、深く考えさせられるお話で、とてもいい時間となりました。

■ 外の景色がレンガだったという衝撃の事実から、様々な考察や意見が出てきて、それらは、とても共感できるものばかりでした。その立場になって考える場面では、ずっと迷っていたのですが、自分でもびっくりするくらいの結論に達し、視野を広げていくことの大切さに改めて気づくことができました。今回の授業、とても楽しかったです。

■ 正しいこと、真実を言うことだけが思いやり、優しさというわけではないんだなと思った。「思いやり、優しさって何だろう?」と思った。

■ 自分の行動によって、相手の気持ちを変えることができることが分かりました。また、一つのことにもいろいろな考え方があり、自分の考えだけでなく、他の人の考えも大切にすべきだと感じました。

■ 人に対する思いやりは、生きる喜びになるということ、今日の授業を通して感じました。思いやりは人が生きていく中でとても大切なことだと改めて思いました。

■ ウソは人を傷つけるものではなくて、人に喜びを与えるべきものなんだと思った。

■ 簡単に人に「死ぬばいいや」などと悪口をすぐに口に出さないほうが良いと思いました。人には、心の奥底に何かあると信じて生きていこうと思いました。今日の授業を通して学んだことを生かして、学校生活を送ろうと思います。

《2年生徒感想 裏面に続く》



■ 道徳の授業は、とても空間が広いなと思いました。社会や数学などのように頭を使うのではなく、心を使う授業で、とてもおもしろいです。自分もあの立場になったらどうするのか、何通りの道から一つを選ぶということが奥が深いと思いました。今、この瞬間も、人生は一度きりなので、今日学んだことを生かして、人生を楽しんでいきたいと思います。

1年特別授業 「日本人らしさと自分らしさ」

1年の特別授業は、3月17日（木）に学年集会の形で実施しました。地震の翌日であったことやコロナの状況もありましたが、地震による大きな被害がなかったこと、広い体育館を使用するという点で、予定通り実施しました。事前にクラス毎に「日本人らしさ」について考えてもらい、授業の最初に代表者に発表してもらいました。バラエティーに富んだたくさんの考えが出されました。生徒の発想力に感心しました。次に『アメリカ人ブログに見る日本人のすばらしさ』という資料などから、日本人らしさを考えました。さらに、日本人らしさを象徴している動画『7分間の奇跡』（海外からも賞賛を受けるまさに神業の新幹線の車内清掃）を視聴しました。後半は、視点を日本人らしさから“自分らしさ”に移して、「自分をよく理解し、まわりのことも理解することも大切である」など、自分らしく生きるために必要なことについてを話しました。

最後には、新幹線の車内清掃の話に戻り、彼らが単なる清掃員ではなく、顧客に礼を尽くし、プライドをもって7分間で完璧な清掃を行う、いわゆる“7分間の奇跡”を生み出す誇り高き集団であること。そこから、生徒達にも、この小原田中に自信と誇りを持ち、「小原田中はすばらしい学校だ！」と自他ともに言えるような誇り高き学校づくりを目指してほしいという話で締めました。



■ まずは日本人のこんなところが外国人に評価されているのかと驚きましたし、ほめられて、とてもうれしかったです。そして、資料を読み、今まで気づかなかったことがいくつもあり、「確かに」と納得しました。次に自分らしさについて、はっとさせられたことは、「自分が取った行動の結果も自分らしさを形成する」という言葉です。正直、この言葉を聞いた時、挨拶はきちんとできているかなど、積極的に行動できているか、内心ドキッとしました。ドキッとしたということは多分できていないのだと思います。この言葉を常に意識して過ごしていきたいと思います。

■ 今日の授業を通して、自分自身や自分の学年、自分の国など、自分が関係することをもっと知るべきだと思いました。自分らしさや日本人らしさなど聞かれたら、迷わず答えられるようにしたいです。今聞かれてもパッと思いつくことがないから、これから生きていく上で自分らしさを見つけていくことが大切だと思いました。校長先生が言っていた「逆に何かしっくりこないことを考えてみると、自分らしさの追求につながる。なぜなら、自分らしく生きたいのであれば、自分らしくないことをやらないようにすることが大切である」という言葉を忘れずに生きていきたいと思いました。

■ 今まで日本で当たり前だと思っていたことが、海外では通用しないことに逆に驚いた。今回で一番心に残ったのは「プライド」だ。僕は自分に対して「誇り」を持ったことがなかった。何事においても、自分に自信が持てず消極的になっていた。だから、これからは「誇り高きプライド」を持てるように頑張りたい。

■ “己”を持つことが大切だと思った。周りに合わせるのも大事だけど、流されないで自分らしさを発揮したいと思った。これからも“小原田プライド”で、たくさん自分の良さを発揮したい。また、周りのこともしっかり分かってあげられるようになりたい。

コロナの感染状況も踏まえ、1・2年生ともに広いスペースでの授業とし、本来であればグループでの話し合い活動も加えながら意見交流を行いたかったのですが、私からの話や自分の考えをまとめる作業が中心になりました。しかしながら、1・2年生ともに私の想いや願いをしっかりと受け止めてくれた生徒も多かったようです。さらには、授業終了後には、一人一人の温かいメッセージをいただきました。こちらこそ、本当にありがとうございました。生徒のみんなと配慮していただいた先生方に感謝します。